青森中央高校演劇部

河童

作　畑澤聖悟

【登場人物】

ヒメノ
トモコ
カイ
ミオナ
サトミ
ユキ
ヨウヘイ
ミナミ
アヤメ
タクミ
ヒロキ
サツキ
ミナ
ユミ
マイ
マサフミ
ユミコ
アスカ
トシキ
その他のクラスメイト

【注】

① 基本的に台詞は標準語で表記され、演技者が日常使用している口語に翻訳されます。
② ☆もしくは★の台詞および動作は同時に進行します。
③ ／の台詞は次の台詞や動作に遮られます。

1

2

音楽「Prise」David Sylvian

開幕。

青森市内にある県立高校。十月である。二年三組の教室。椅子が二十五脚、正方形の隊列で並んでおり、二十四の高校生が正面を向いて座っている。授業中であるらしい。最前列の真ん中のみ空席。一人ずつ立って音読（暗唱）する。複数による台詞は代表者だけ記載。

ミオナ　河童は日本特有の怪物である。カエルのような肌で、背中に亀の甲羅がある。

カイ　頭の上にお皿があり、ここに水がたまっている。

トモコ　お皿が乾くと死んでしまう。

サトミ　皮膚は緑色で、いつも湿っている。指には水かきがある。

アヤメ　いつも魚のような「生臭い」匂いがしている。

ヒロキ　くっせー！

一同、笑う。

ミナミ　河童が好きな食べ物はキュウリである。

サツキ　元々はキュウリではなく、水をたっぷりと蓄えたウリが好きなことになっていた。

ミナ　現代の食卓ではウリよりもキュウリの方が一般に親しまれているため、河童の好物もキュウリになったらしい。

マイ　河童は大まかに分けると二種類が存在する。

ヨウヘイ　①亀タイプ

ヒロキ　体はウロコで覆われくちばしがあり、頭には皿を乗せている。頭の皿が割れると死ぬ。または力を失い衰弱する。

アヤメ　背中に甲羅があり手足に水かきがある。

タクミ　亀のように四本足で歩くこともある。

ユキ　牛や馬の尾にしがみついてわるさをしたのはこちらのタイプであると思われる。

ミナ　一般的な河童のイメージはこれであるが、目撃例は意外に少ない。

ヨウヘイ　②類人猿タイプ

マサフミ　全身が毛に覆われており、口には牙があり鼻の造形がはっきりしない。

ユミ　頭部にはくぼみがあり、そこに常に水をためている。
ユミコ　その水が乾くと死ぬ、または衰弱する。
トシキ　相撲が得意でよく人間の子供と遊ぶ。
ミナミ　昭和以降の目撃例ではこのタイプが圧倒的に多い。
タクミ　河童はＵＭＡではないかという説もある。
サトミ　ＵＭＡってなに？
トモコ　Ｕ、Ｍ、Ａ。Unidentified Mysterious Animal。
ミナ　え？
トモコ　未確認動物ッてこと。
アヤメ　へえ。
トモコ　ＵＦＯといっしょ。Unidentified Flying Object。未確認飛行物体。
全員　へー。

教師（無対象）が、「静かに」と注意したらしい。一同、静かになる。教師はサトミを指名したらしい。

サトミ　あ、はい。・・・はい。・・・大丈夫です。いきまーす。

サトミ、音読を再開する。

サトミ　河童はずっと昔からこの世に存在しているらしい。
カイ　人というものが存在する限り、河童もいなくならないだろう。
サツキ　河童は群れを作らず、単独で生活している。
トモコ　普段は川の深い縁に沈んで、膝を抱えてじっとしている。
マイ　でも、たまに人恋しくなって水面にあがってくる。
カイ　河童に話しかけられても、決して相手をしてはいけない。
ユキ　気を許すとたちまち川に引きずり込まれてしまう。
サツキ　溺れて死ぬのではない。
ミナミ　河童に姿を変えられてしまう。
ミナ　これは死ぬより恐ろしい。
アヤメ　河童の肌が緑色なのは、誰も見つめてくれないからだ。
マサフミ　河童の背中に甲羅があるのは、みんなが石を投げるからだ。
タクミ　河童の手に水かきがあるのは、誰も手をつないでくれないからだ。

ミオナ　夜、河童が月に向かって吠えることがある。
ミナミ　なぜ私は河童なのか。
トモコ　なぜこの世に河童というものが存在するのか。
アヤメ　その声は誰にも聞こえない。
サトミ　だから誰も答えてはくれない。
マサフミ　さびしい。
ユキ　さびしい。
ミナミ　さびしい。
全員　さびしい。
ヨウヘイ　いつの日か、河童が河童でなくなる日が、くるだろうか。
全員　（起立して）河童が河童でなくなる日が、くるだろうか。

SE「終業のチャイム」

カイ　きをつけー。

全員、起立。

カイ　れーい。
全員　ありがとうございました。

全員、礼。着席。「やれやれ昼休みだ」と、解散しそうになるところカイが前に出て止める。

カイ　ごめん。みんな待って。座ってくれない？
サツキ　えー、なに？
カイ　ちょっと、ハナシあるんだけど。すぐ終わるからさ。

一同、「はいはい」と座る。トモコ、カイの隣に立つ。

カイ　ヒメノのこと。
全員　・・・・。
カイ　私も今朝、実際に見るまで信じられなかったんだけどさ。
全員　（それぞれ頷く）
カイ　みんなもびっくりしたと思うけど、いちばんびっくりしてるのは本人だと思うんだよね。

全員　（それぞれ頷く）
カイ　今朝も言ったんだけどさ。がんばっていつも通りにしてあげようよ。
ユキ　別に、いつも通りにしてたよ。ね。
ミナ　うん。
トモコ　いや、なんか、みんな、どっか嫌そうな顔してたじゃない。ヒメノも、そのへん感じちゃったんじゃないかな。だから、倒れちゃったんじゃないかな。

短い間。

トモコ　ヒメノ、がんばって学校に来たじゃない。すごい勇気じゃない。私だったら、引きこもっちゃうよ。
全員　（それぞれ、しみじみする）
トモコ　だから、私たち、もっと気、遣ってあげようよ。もっともっと優しくしてあげようよ。ね。
ヨウヘイ　ホントだよ。その通りだよ。な、みんな。
全員　（しーん、とシカトする）
ヨウヘイ　・・・・。
カイ　ホントだよ。その通りだよ。な、みんな。
全員　（それぞれ頷いたり「優しくする」とか「うん」とか言ったりする）
カイ　おっけい！
全員　おっけい！
ヨウヘイ　（少し遅れて）おっけい！
カイ　いまヒメノ、仲間に入りづらい状況だと思うんだよね。で、私から提案なんだけど、今日はクラス全員でお弁当食べようよ。ヒメノ囲んでさ。ヒメノ、喜ぶよ。きっと。
ヨウヘイ　グッドアイディア！
ユキたち　えー。
ミオナ　ウチはいっつもサトミと二人で図書館で食べてるんだけどな。☆ねー。
サトミ　☆ねー。
ヨウヘイ　ま、いろいろあるだろうけど。今日はガマンしようぜ。な。

5

6

ヨウヘイ、顔近い。ミオナ、顔をしかめる。
サトミ　まー、いーけどさー。
ヨウヘイ　ありがとう！
トモコ　ありがとうね、みんな。
全員　（笑顔でＯＫサイン）
トモコ　じゃ、私、ヒメノ、迎えに行ってくるから。
ヨウヘイ　おう、行ってこい！
トモコ　ありがとう。

トモコ、涙ぐみながら退場。

ヨウヘイ　あ、やっぱ、俺も行くわ。心配だし。

ヨウヘイ、大あわてで退場。

カイ　みんな、ありがとね。ハナシ、終わり。ヒメノ来るまで全員教室で待機ね。

全員、それぞれ立ち上がる。昼食の支度。それぞれ、移動。舞台前方にトモコ、カイ、ミオナ、サトミ、アヤメ、ユキの女子グループ。舞台前方上手にトシキ、アスカ、マサフミ、ヒロキ、タクミの男子グループ。ミナミ、教室から出て行こうとするが、カイに尋ねる。

ミナミ　あの、全員って、全員？
カイ　当たり前じゃない。勝手なことするんじゃないよ。
ミナミ　・・・・。

ミナミ、舞台前方下手にひとりポツンと座る。読書しながら弁当。舞台後方にユキ、ミナ、ユミ、マイ、サツキ、ユミコらによる女子の大グループ。男子グループは集まってデュエルカードゲームのカードをシャッフルしている。

ユキ　なんか、調子こいてるなー。
マイ　なに？

ユキ　ヨウヘイよ。
マイ　あー。
ユキ　（マネする）「ま、いろいろあるだろうけど。今日はガマンしようぜ。な」・・バッカじゃない。
ミナ　あいつ、うざいよねー。
ユキ　いい気になってるよね。ヨウヘイのくせに。
ミナ　ヨウヘイって、顔近いもんねー。
ミオナ　さっきもすんげー近かった。
サトミ　顔近い上に、オヤジ臭いもんな。
ミオナ　見た目もオヤジ臭いもんな。
サトミ　オヤジじゃーなー。
ユミ　ヒメノのこと好きなんだよ、アイツ。
サツキ　あ、あんたもそう思う？
ユミ　いっつもヒメノのこと見てるよね。ヨウヘイ。
サツキ　ねー。
ミオナ　やっだー。
サトミ　あ、私もわかるー、それ。
マサフミ　えー、だってヒメノってタクミとつきあってるってるんだろ？
サトミ　えー、そうなの？
タクミ　んなこたぁねーよ。
ユキ　聞いたわよ。サンロードの喫茶店で二人してパフェ喰ってたんでしょ？
ミオナ　おっ、ジャスコデート！
サトミ　パフェ・・？
タクミ　誰がそんなこと言ったんだよ。デマだよ、デマ。全然カンケーねーから。
ユキ　あ、そ。
サトミ　（ホッとする）

と、ヨウヘイ登場。

ヨウヘイ　お待たせ。
ユキ　待ってねーよ。
ヨウヘイ　やっぱ一人でいいって、トモコに言われちゃった。
マサフミ　ヒメノ、帰ってたんじゃなかったの？

ヒロキ　なに、オマエ知らなかったの？保健室行ったんだよ。
マサフミ　なんで保健室？
ミオナ　一時間目、体育だったじゃない。
ヒロキ　あー。
サトミ　いまのヒメノにサッカーは無理だよなー。
ヒロキ　ヘディングしたら、皿割れちゃうんじゃねーの？
ミオナ　ま、ゴールキーパーだったんだけどね。
マサフミ　じゃ、大丈夫じゃん。
ミオナ　でも、天気良かったから、お皿乾いちゃったのよ。
タクミ　バッカだなあ。
アヤメ　あ、駄目だよ、そんな言い方。
カイ　言ったでしょ。優しくしなきゃ。
タクミ　はいはい。
サトミ　ヒメノ、大丈夫かな。
ミオナ　大丈夫でしょ。水分取れば大丈夫って言ってた。シラトリ先生。
サトミ　やったら張り切ってたもんね。
アヤメ　張り切ってた。
ミオナ　身の程を知れっつーの。普通のアレじゃないんだから。
アヤメ　いちおう帽子はかぶってたけどね。
サトミ　体育のたんびに保健室行ってたんじゃ、ツライよなー。
カイ　ゴシラカワ先生から、プールに入っててもいいって言われてたらしいんだけど。
サトミ　ラッキーじゃん。
カイ　でも断ったんだって。
サトミ　どうして。
カイ　特別扱い、嫌だって。
サトミ　そんなこと言ったってなあ・・・。

男子グループ、シャッフルが終わる。

タクミ　はい、準備完了ぉ！
ヒロキ　よっしゃあ！
男子全員　最初はグゥ、じゃーんけんぽん。

じゃんけんする男子たち、ヒロキが勝った。

ヒロキ　じゃ、俺からね。
タクミ　さあ来い。
　にぎやかにカードゲームが始まる。
ユキ　あんたらさあ、ちょっと、うるさいんだけど。
男子全員　はーい。
　男子、ボリュームを落として小声でゲームを再開する。
サトミ　それはそうとね。グラサン買ったのー。見て見て。
　サトミ、怪しいサングラスをかける。
カイ　あんたインチキ臭いよ。
サトミ　何が？
カイ　存在自体が
　男子のゲームが盛り上がり、大声になる。
男子全員　むおおおおおおおおおおおッ！
ユキ　（いきなり立ち上がり、わざとらしく咳払い）
　ユキ以外のグループメンバーも続いて咳払い。男子、沈黙し、小声でゲームを再開する。
サトミ　なに？あたしの存在が嘘っぱちだって言うの？
カイ　そう。嘘。幻。ミラージュ。
サトミ　「生蕎麦」を「なまそば」と読んだあんたにとやかく言われる筋合いはなくってよ。
カイ　あんただって、国語の時間、「お土産」を「おどさん」って読んだくせに。
サトミ　うちの町内はそうやって言う決まりになってんのよ。
カイ　嘘ばっかり。

　男子のゲームが盛り上がり、大声になる。
男子全員　むおおおおおおおおおおおッ！
ユキ　おめーら、ウルセーって言ってンだよ！一回注意されたら学習しろ！この小学三年生！
男子全員　はーい。
　男子、沈黙し、小声でゲームを再開する。
ユキ　ちょっとタクミ君。
タクミ　なに？
ユキ　ヒメノって、修学旅行行くの？
タクミ　なんで俺に聞くの？
ユキ　だって、アレなんでしょ、ねえ？
ヨウヘイ　え？
タクミ　カンケーねーって言っただろ！
ヨウヘイ　アレってなに？
タクミ　るっせーよ！
ヨウヘイ　ごめん。
ユキ　じゃ、委員長なら知ってるよね？
カイ　なに？
ユキ　ヒメノさん、修学旅行？
カイ　そりゃあ、行くでしょ。今日だって学校来たし。
ユキ　へー、そうなの。
カイ　なに、嫌なの？
ユキ　嫌じゃないけどさ、この先どうするのかって思って。（自分のグループに）ねえ。
グループ一同　ねえ。
カイ　あー、なんか嫌な雰囲気ね。
ユキ　だって、外で長い間活動できないんでしょ？お皿に水足さないと死んじゃうんでしょ？大変じゃない。ねえ。
グループ一同　ねえ。
ユキ　それに、あの、顔ねー。
ミオナ　いいじゃない？本人、気にしてないんだから。
カイ　気にしてないって事はないでしょ。
ミオナ　そうかなあ。

ユキ　まあ、顔だけだったら、我慢できるんだけど。ねえ。
グループ一同　ねえ。
カイ　なによ。
ユキ　もう、食欲無くなりそう。私、もうしばらくおサカナ食べられないかも。ねえ。
グループ一同　ねえ。
カイ　約束したじゃない。
マサフミ　ま、キョーレツだからなあ。
タクミ　まあな。
ヨウヘイ　おい。
ユキ　誰か本人に言ったの？
ヨウヘイ　言ったってしょうがないだろ。
グループ一同　言ってない。
ヨウヘイ　本人の身にもなってみろよ。
ユミコ　８×４とかプレゼントしよっか。
マイ　ファブリーズの方がいいんじゃない？
カイ　だから、あんたらさあ。

ヒメノ登場。

ヒメノ　よ。

ヒメノは河童である。制服は着ているが、緑色の顔、黄色いくちばし、頭に皿、手にはケロイド状の皺と水かき。

ヨウヘイ　・・よ。

ヒメノのあとからトモコも登場。

ヒメノ　なんか、人、多いね。賑やかだね。
ヨウヘイ　大丈夫？
ヒメノ　いやあ、皿、乾いちゃって乾いちゃって。
ヨウヘイ　あー。
ヒメノ　熱中症って流行ってるらしいから。
ヨウヘイ　熱中症とは違うんじゃないかな。
トモコ　水分いっぱい取れば大丈夫だって、シラトリ先生が。

ヒメノ　そそ。水分水分。

ヒメノ、手に持ったペットボトルをぐっと飲み、手で皿にぺちゃぺちゃ水をつける。

ヒメノ　ああ、なんか、生きてるって感じ。
トモコ　お昼にしよう。
ヒメノ　あ、ごめん。待たせちゃったね。
カイ　いーの、いーの。
ヒメノ　さ、食べよう。
カイ　今日はみんなで一緒に食べようって思って待ってたんだよ。
ヒメノ　へー。
カイ　じゃ、ヒメノを囲んでみんなで丸い大きな輪になりましょう。はーい、移動ぉ！

全員、もたもたと移動する。直径三間の大きな円になる。

カイ　はい、あんたら、いつまで遊んでンの！はい、動いた動いた！

男子、不服そうに移動。ミナミだけは輪から外れ、立ちつくしている。

ヒメノ　ウチ、どこ？
カイ　えーっとね、「ヒメノを囲んで」だから真ん中！
ヒメノ　えー。

ヒメノ、輪の真ん中に取り残される。

カイ　さ、ミナミも入って。
ミナミ　え？
カイ　さ、入って。
ミナミ　えー・・？
カイ　さあ、ここ（と、位置を示す）。

ヒメノ、ミナミを睨み付ける。

カイ　（ヒメノに）いいじゃない。今日は。ね。
ヒメノ　・・・・・・。

ミナミ、円に加わって居心地悪そうに座る。間。

カイ　これがホントのクラスのワ！
ヨウヘイ　うまい！
カイ　はい、じゃあ、みんなおまたせー。さ、食べよ！

ヒメノ、円の中心に取り残されている。

ヒメノ　カイ、やっぱり変。
カイ　そうだね。じゃ、中に入ろっか。

ヒメノ、円に加わって座る。ユキの隣に。ユキ、立ち上がる。

ユキ　私、やっぱ屋上で食べる。
グループ一同　さんせーい。
カイ　ちょっとお！・・・あんたたちさあ！

ユキとそのグループ、ぞろぞろと退場。男子グループもち上がり、去ろうとする。

ヨウヘイ　あれ？
マサフミ　中庭で喰う。
ヨウヘイ　中庭は三年生の縄張りだよ。
マサフミ　一体の裏とか。
ヨウヘイ　体育館のあたりは全部運動部、押さえてるって。
マサフミ　ま、どこでもいいさ。
ヨウヘイ　タクミぃ。

タクミ、止まる。

ヨウヘイ　オマエ、先週貸した五〇〇円まだ返してないだろ？
タクミ　・・・。

去れないタクミ。タクミを残し、男子グループ退場。

ヨウヘイ　さー、こっちこっち。

ヨウヘイ、自分とタクミの椅子を用意し、座る。間。

カイ　なんだか、淋しくなっちゃったね。・・・ちょっと、まとまろっか。ね。はーい、場所チェンジぃ！

一同、客席に向いた小さな弧の形に椅子を並べ直す。先に去った連中の椅子はその位置のまま。ヒメノの隣が空いており、座るのが遅れたアヤメ、躊躇する。

カイ　さ、座って。
アヤメ　・・・あ、ウチ、バレー部でミーティングあるの忘れてた。じゃ、ね。

アヤメ、走り去る。

カイ　おい、
トモコ　アヤメちゃん・・・。

河童のヒメノと七人（カイ、トモコ、ヨウヘイ、タクミ、ミナミ、ミオナ、サトミ）が残った。ヒメノの隣は空いたまま。

ヨウヘイ　あれ、何で空いてるんだろー。俺に座らせろよー。突撃となりの昼ごはーん！

ヨウヘイ、椅子を持ってヒメノの隣に移動。しかし、座はしーんとしたまま。長い間。カイ、ヨウヘイに「この場を盛り上げて」の合図。ヨウヘイ、困惑するが、やがて顔を上げる。

ヨウヘイ　あのさ、みんな知らないかも知れないけど、ボク野球部なのよ。練習はまあ、楽しいんだけど、コーチが厳しい人でさ。集合に遅れたらケツバットなのよ。ケツバット。知ってる？「よ

し、ケツを出せぇ」「うっす」「歯を食いしばれ」「あぁん」ってさ、カツーンってやっちゃうのよ。ガツーンって。大変なんだよ。やってらんないよ。

しーん。カイ、ヨウヘイにふたたび「この場を盛り上げて」の合図。ヨウヘイ、困惑するが、やがて顔を上げる。

ヨウヘイ　あのさ、俺、小学校六年の時からずっと使ってる金属バットがあるのよ。もう五年も使ってるから、キンゾク五年。当然、名前もつけてるのね。・・・なんてゆーと思う？

しーん。

ヨウヘイ　ね、なんてゆーと思う？

しーん。

ヨウヘイ　バット君。意外でしょ？名字はＭＩＺＵＮＯ。だって書いてあるんだもの。ここんとこに。フルネームはミズノ・バット。可愛いヤツでさ。打席で「バット君、でかいの一発たのむぜ」っていうとヒットが出るのよ。「バット君、もっとでかいの一発たのむぜ」っていうと、ホームラン出るのよ。スクイズの時はなんてゆーと思う？「バット君、三塁線に緩いの一発たのむぜ」って。ねー、可愛いだろ？

ヒメノ　（低く笑っている）

ヨウヘイ　あ、受けてる。受けてるよね？

ヒメノ　（笑い声が大きくなる）

ヨウヘイ　やったー、受けてる。

ヒメノ　桑田か、お前は。

ミオナ　え？サザンの？

ヒメノ　巨人からメジャーに行って、あんまり活躍しないで帰って来た桑田。

ヨウヘイ　桑田真澄。ＰＬ学園出身。

ヒメノ　投げる前にボールにブツブツ言うんだよね。

ヨウヘイ　そうそう。やっぱ、野球好きだね。

ヒメノ　巨人ファンだからね。

ヨウヘイ　でも俺、巨人嫌いだから。

ヒメノ　なーんだとお？

一同、笑う。座がほぐれた。

カイ　あー、でもよかった。

ヒメノ　なに？

カイ　今日、アンタ学校来なかったらどうしようかって思っちゃった。

ヒメノ　なんで？

カイ　だって、六時間目、ロングホームルームじゃん。修学旅行のクラス別コースの行き先決めなきゃ。

ヒメノ　あ、そうだそうだ。

カイ　あんたいないと、平和祈念館とかに決められちゃいそうだからさ。

ヒメノ　まー、アキラだからねー。

ミオナ　やっぱ、ビーチ？

ヒメノ　アタリマエじゃない。海がなくてなんの沖縄よ。

サトミ　そうか。そうだよね。

ミオナ　どこのビーチ？

ヒメノ　エメラルドビーチとか万座ビーチとかうっぱまビーチとかタイガービーチとかいろいろあるけどさ。どこでもいいじゃん。どうせバス一台貸し切って移動できるんだし。

ミオナ　寒くないかな？

ヒメノ　大丈夫だって。一年中泳げるって言ったでしょ。

ミオナ　ま、そうだけどさ。

ヒメノ　みんなもビーチでいいんだよね？

カイ　うん、いいよ。

ヒメノ　みんなでプッシュしようよ。ビーチ。ね。

全員　（それぞれに「・・・うん」）

ヒメノ　ウチさ、ホント泳ぎたいの。泳ぎたい、って気持ちがますます強くなったんだよね。なんでだかワカンナイけど。泳ぎてぇーッ。

全員　（それぞれにお愛想笑いする）

ヒメノ　・・・みんな、ありがとね。

カイ　え？

ヒメノ　ウチ、ホントは怖かったの。みんなに嫌われるんじゃないかって。誰も口きいてくれないんじゃないかって。
カイ　そんなことないよ。いつもと変わらないじゃない。ね？
ミオナ　そうそう。変わんない変わんない。
トモコ　ヒメノはヒメノだよ。
サトミ　そうそう。ヒメノはヒメノだよ。
ヒメノ　・・・そうか、そうなのか。いや、実はそうなんだよ。ウチは、ウチ！
カイ　なーに、いばってんのよ。
ヒメノ　てへ！

一同、笑う。

ミオナ　あのね、さっきのハナシ。
カイ　なんだっけ。
ミオナ　あんたの「なまそば」のハナシ。
カイ　サトミの「おどさん」のハナシね。
☆**サトミ**　なにぃ？
☆**ミオナ**　そうそう。それで思い出したんだけど、ヒメノってね、一年の時ね、地理の時間にね、「ジャワ島」のことを「ジャワどり」って読んだんだよ。
ヒメノ　そんなこと言ったらね、トモコなんかもっとすごいことやってんのよ。ね、トモコ。
ミオナ　私も知ってる。それ。
トモコ　やめてよぉ。
ヒメノ　高校入試の集団面接で同じグループだったのよ。ね、トモコ。
☆**トモコ**　もー。
☆**ミオナ**　私もいた。その時。
ヒメノ　トモコったら凄いの。緊張して。こんなに緊張してる人、いままで見たことがないぞってくらい緊張してんの。で、面接の先生が聞いたのね。
ミオナ　「えー、好きな運動はなんですか」。
ヒメノ　「な、なべやきうどんです」。

一同、爆笑。

ヒメノ　（ミナミに）おい。

一同、沈黙する。

ヒメノ　なんで笑うんだよ。
ミナミ　・・・・
ヒメノ　オメーはトモコを笑うな。
ミナミ　・・・・
ヒメノ　ムカつくんだよ！
トモコ　ヒメノ・・・。

一同、沈黙する。

カイ　ねえサトミ。さっきのグラサンかけたまんま校長室に行って「君のまぶしさに乾杯」って言ってきたら二百円あげるよ。

サトミ、無言で立ち上がり、舞う。

カイ　お、燃えてるね。
ミオナ　あんたのプライドって二百円なの？
サトミ　私はミラージュだし、ヒメノは蓬田だし。蓬田、携帯通じないしぃ。
ヒメノ　通じるよ。
サトミ　嘘、圏外のくせに。
ミオナ　え？蓬田って県外なの？青森県じゃないの？
カイ　そうじゃなくて、携帯が通じないってコト。
ミオナ　えー、携帯通じないんだ。
ヒメノ　通じるよ。
サトミ　ホントぉ？
ヒメノ　蓬田は田舎じゃないよー。
サトミ　青森市内に較べたら田舎じゃない。
ヒメノ　蓬田をバカにするのはやめてよー。
トモコ　そうよそうよ。
サトミ　え？トモコも蓬田なの？
トモコ　そ。

ヒメノ　青森市内がちょっとくらい都会だからって蓬田を差別するな。
トモコ　そーだそーだ！
ヒメノ　青森県なんてどーせ、よそから見たら全部まるごと田舎なんだからねー。
トモコ　そーだそーだ！
カイ　仲いいね。
ヒメノ　私たち、よもフレなの。
カイ　なに？よもフレ？
ヒメノ　蓬田フレンドよ。小学校も中学校も一緒なの。ね。
トモコ　ね。
カイ　町内も一緒？
ヒメノ　いや、私は阿弥陀川で、トモコは中沢。
サトミ　どっちが都会なの？阿弥陀川と中沢。
トモコ　んー、中沢かな。ね、ヒメノ。
ヒメノ　ちょっと、ごめん・・・。
トモコ　どうしたの？
ヒメノ　・・・おしっこ。
トモコ　じゃ私も行く。あんまり一人で出歩かない方がいいって。
ヒメノ　ありがと。わーい、つれしょん♪つれしょん♪
トモコ　やだ、もう。

ヒメノ、トモコ、手をつないでスキップで退場。サトミ、咳き込む。

サトミ　ちょっと、新鮮な空気吸ってくる。

サトミ、顔をしかめて退場。

タクミ　・・・しょうがないよな。
カイ　まあ、しょうがないっていうか。
タクミ　河童になっちゃったんだから。
カイ　声とか性格とか、全然かわんないのにね。
タクミ　頭ん中は変わってないって事だろ。
カイ　なんでこんなことになったんだろ。
タクミ　さあ。

ヨウヘイ　「変身」みたいだな。
カイ　なにそれ？
ヨウヘイ　小説。一人の男がいきなり毒虫に変身しちゃうの。
カイ　なんで？
ヨウヘイ　理由はないの。不条理だから。不条理ってわかる？
カイ　顔近い。
ヨウヘイ　あ、ごめんごめん。
カイ　日本の小説？
ヨウヘイ　いや、外国。誰だっけ、作者。
ミナミ　フランツ・カフカ。チェコ生まれのユダヤ人。
ヨウヘイ　そうそう。物知りだね。
ミオナ　朝からずっと考えてたんだけどさ。
カイ　なに？
ミオナ　ヒメノって病気なのかな。
カイ　病気とは、ちょっと違うんじゃないの？
ミオナ　じゃあ、なんなの？
カイ　なんなの、って言われてもな。（タクミに）なんなの？
タクミ　わかんねーよ。
カイ　万が一、病気だったら、それはそれでいいじゃない。治るってことだから。
ミオナ　でも、病気だったら、うつるってことじゃない？
カイ　・・・まさかぁ。
ミオナ　トモコ、大丈夫かな。
カイ　・・・・・。
ミオナ　手、つないだりなんかして。ヌルヌルしてるのに。
カイ　ヌルヌルしてないよ。
ミオナ　してるよ。見ればわかるじゃん。

サトミ、帰ってくる。

カイ　おかえり。
サトミ　あんたたち、平気なの？
カイ　・・・・・・・・・・。
サトミ　（ヒメノの座っていた椅子をくんくんする）わあ、椅子まで臭いよ。
ミオナ　（くんくん）ホントだ。

サトミ　三〇年間、一日も休まず北海道から東京まで海の幸を運び続けたトラックの荷台みたいな匂い。
ミオナ　具体的だな。
サトミ　ねえ、ヒメノって修学旅行行くの？
カイ　行くでしょ。
サトミ　ぶっちゃけ、ちょっと考えてもらった方がいいんじゃない？
カイ　ちょっと！ヒメノに修学旅行来るなって事？
サトミ　・・ま、そうは言ってないけどさあ。
カイ　あんなに楽しみにしてるのに。
サトミ　だって、この匂いじゃ、さあ。
カイ　ヒメノは仲間じゃない。違うの？
サトミ　・・・仲間だよ。
カイ　じゃあ、我慢しようよ。せめて、私たちだけは。ね？
サトミ　・・・うん。
ヨウヘイ　そうだよ。みんなでヒメノの力にならなくっちゃ。
カイ　うん。
ミオナ　・・・そうだね。
カイ　臭いって思うから臭いんだよ。こんなの全然たいしたことないって。友情は臭さに勝つ！
☆**ミオナ**　・・・えー。
☆**サトミ**　・・・えー。

カイ、思い切り椅子に顔を近づけて息を吸う。

カイ　うわあ！いい匂いだ！
ヨウヘイ　よし。

ヨウヘイも参加。二人で。

★**カイ**　うわあ！いい匂いだ！
★**ヨウヘイ**　うわあ！いい匂いだ！

カイ、ヨウヘイ、他の四人を睨む。他の四人もやむなく椅子に顔を近づける。

カイ　顔遠い！友情はないのか！
ヨウヘイ　ないのか！

四人、やむなく、更に顔を近づける。

カイ　はい、すってー、はいてー、すってー。はいッ！
☆**サトミ**　うわあ！いい匂いだ！
☆**ミオナ**　うわあ！いい匂いだ！
☆**タクミ**　うわあ！いい匂いだ！
☆**ミナミ**　うわあ！いい匂いだ！
カイ　はい、もういっかーい。すってー、はいてー、すってー、

と、ヒメノ、トモコ、帰ってくる。

ヒメノ　ただいまー。

ヨウヘイとカイ以外むせる。

ヒメノ　どうしたの？
カイ　なんでもない。ちょっと、体操してたから。

と、全員いきなり体操を始める。

ヒメノ　へー。
カイ　廊下、大丈夫だった？
ヒメノ　なんかみんなに見られちゃった。
ヨウヘイ　そりゃ、しょうがないよ。
ヒメノ　そうかな。
トモコ　今日イキナリだからね。
カイ　普通びっくりするって。
ヒメノ　そうだよね。しょうがないよね。
カイ　でも、そのうちみんな、慣れるよ。ウチらだってもう慣れたもん。ね。
全員　う、うん。
ヒメノ　よかった。じゃ、ゴハン食べるぅ。
カイ　食べよう食べよう。いっただきまーす。

それぞれに「いただきます」。ややあって、ヒメノの弁当箱に全員注目。大きい透明のタッパーウェアにごろごろとキュウリが入っている。ヒメノ、ぼりぼりとキュウリをかじり始める。

カイ　ヒメノ。
ヒメノ　なーに？
カイ　それ、
ヒメノ　キュウリ。
カイ　やっぱり？
ヒメノ　そうなの。なんか、無性に食べたくなってさ。わかりやすいよね。
ヨウヘイ　おいしい？
ヒメノ　おいしい。
カイ　マヨネーズとかもろみとかつけないの？
ヒメノ　付けないよ、もったいない。一本食べる？

と、一本カイに差し出す。

カイ　ありがと。

カイ、キュウリを一本取り、ヒメノと一緒にかじる。

ヒメノ　へへ（と、微笑む）
カイ　へへ（と、微笑む）
ヒメノ　キュウリフレンド。
カイ　・・・キュウリフレンド。

何となく気まずい空気が流れる。

カイ　なんか、会話、弾まないね。

何となく気まずい空気が流れ続ける。

カイ　もっと、楽しい雰囲気にすればいいんじゃないかなあ。せっ

かくみんな集まってるんだし。（ヨウヘイに）ねえ。

ヨウヘイ、知恵を絞り、そして思いつく。

ヨウヘイ　・・・みんな、プロポーズ大作戦って知ってるぅ？

みんな、口々に「知らない」「なにそれ？」など。

ヨウヘイ　結構昔のテレビ番組なんだけどさ。その中に、フィーリングカップル五対五って、いうコーナーあってね。いや、実は、うちの両親、これで出会ったんだよ。女の子が五人。男の子が五人、向かい合って座るのね。で、いろいろ、お話して、気にいった子の番号を押すわけ。で、こー、ビビビビッて電光が走って、両思いならハートマークなんだけどぉ、だめならダメで、って当たり前か。ちょっと、座ってみましょうか。えーっと、男子こっちね。んで、女子がそっち。はい、移動して。あ、いいですよ。食べながらで。

みんな、渋々指示に従う。上手に男子二人。下手に女子六人がＶ字に座る。

ヨウヘイ　カイさん、サトミさん、ミオナさん、ミナミさん、トモコさん、ヒメノさん。順番に一番さん、二番さん、三番さん、四番さん、五番さん、六番さんね。
ヒメノ　ウチ、そういうのいい。
ヨウヘイ　いや、ま、そう言わずに。
トモコ　そうだよ。ヒメノもやろうよ。面白そうだよ。
ヒメノ　えー、そう？
ヨウヘイ　男子は二人だから、一番さん（タクミを指さす）、二番さん（自分を指さす）ね。あと、ボクは司会もやりますから。

ヨウヘイ、真ん中の位置に立つ。

ヨウヘイ　フィーリングカップル五対五なのに男子が二人で女子が六人だけど、まあ、略式だからいいよね。じゃ、始めましょう。・・では、質問ある人！

もちろん、誰も手を挙げない。

ヨウヘイ　すいません。こういうときは、全員が手を挙げるのが礼儀です。いいですか、じゃ、もう一回。・・・質問ある人！

全員が手を挙げる。ヨウヘイも。

ヨウヘイ　はい、女子の三番さん。

ミオナ　えっと、好きな女性のタイプを教えてください。

ヨウヘイ　すいません、こういうときは、思いっきりぶりっこで言うのが礼儀です。

ミオナ　（思いっきりぶりっこで）えっと、好きな女性のタイプを教えてください。

ヨウヘイ　（指でＯＫサインしつつ）全員ですか？

ミオナ　はい。

ヨウヘイ　はい、男子の一番さん。

タクミ　アンジェラ・アキ。

ヨウヘイ　はい、男子の二番さん。（二番の位置に移って）森光子。（司会の位置に戻って）はい、次に質問ある人。

全員、一斉に手を挙げる。ヨウヘイも。

ヨウヘイ　はい、女子の一番さん。

カイ　（思いっきりぶりっこで）えっと、その人のどんなところが好きなんですか？

ヨウヘイ　はい、男子の一番さんから。アンジェラ・アキ。

タクミ　歌うまい。あとメガネ。

ヨウヘイ　（二番の位置に移って）森光子、いつまでも若々しい（と、でんぐり返りする）。（司会の位置に戻って）はい、次に質問ある人。

全員、一斉に手を挙げる。ヨウヘイも。

ヨウヘイ　はい、男子の二番さん。（二番の位置に戻って）えーっと、好きな食べ物はなんですか？（司会の位置に戻って）はい、全員

ですね。女子の一番さんから。

カイ　アールグレイの紅茶。

サトミ　卵焼き。

ミオナ　チョコレートパフェ。

ミナミ　たべっこどうぶつ。

トモコ　ホタテフライ。

ヒメノ　キュウリ。

ヨウヘイ　・・・なるほど、個性が出ますね。はい、次に質問ある人。

全員、一斉に手を挙げる。ヨウヘイも。

ヨウヘイ　はい、男子の二番さん。（二番の位置に戻って）えーっと、どんな男性が好みですか？（司会の位置に戻って）はい、女子の一番さんから。

カイ　オダギリジョー。

サトミ　ブラピ。

ミオナ　あんた以外の誰か。

ミナミ　芥川龍之介。

トモコ　松平健。

ヒメノ　デビッド・カッパーフィールド！

ヨウヘイ　・・・なるほど、個性が出ますね。はい、次に質問ある人。

全員、一斉に手を挙げる。

ヨウヘイ　はい、女子の二番さん。

サトミ　一番の方に聞きたいんですけど。趣味っていうか、部活動は何ですか？

ヨウヘイ　あ、それ、大事だね。はい、男子の一番。

タクミ　いちおう、美術部やってます。

カイ　タクミ君って、美術部だったの？

うなずくタクミ。

ヨウヘイ　会議室の廊下に掛かってる絵知ってる？

カイ　知らない。
サトミ　バラの花抱えたタキシードの男？
ヨウヘイ　そうそう。
サトミ　んで、遠くで白い馬に乗った王子様が走ってるやつ！
ミオナ　王子様は走ってないだろ。
カイ　あの、モロ少女漫画なやつ！
ヒメノ　そうそう。
カイ　あれ、タクミ君描いたの？
ヒメノ　そうそう。
カイ　すげーっ！っていうか、げー！っていうか。
ヨウヘイ　昔からオタクの腐れオンナみたいな絵、書くんだよ。な。
タクミ　・・・あと作曲。
カイ　え？
タクミ　おれ、作曲してるんだ。
全員　作曲！
タクミ　詞も書くけどね。
カイ　詞？
タクミ　作詞。
全員　作詞！
ミオナ　なんじゃそりゃ！
サトミ　きゃー！
タクミ　まあな。
カイ　作詞作曲かあ？
タクミ　今は美術部なんかやってるけど、本業はミュージシャンだからね。
トモコ　すげー。
ミオナ　本業は高校生だろ！
カイ　バンドやってるの？
タクミ　今のところ、ソロ。
カイ　やっぱり、友達いないのね。
ミオナ　ホントに曲、作ってんの？
タクミ　きのう、新曲できた。
ヒメノ　あ、できたんだ。
トモコ　え？
ヒメノ　なんでもない。
ヨウヘイ　歌えよ。

タクミ　嫌だ。
ヨウヘイ　ほんとは歌えないんだろ。
タクミ　楽器、ないと（と、ギターを弾く手振り）。
カイ　ゼータク言うな。
ミオナ　いい気になってるんじゃないの？
ヒメノ　どっかにないかな？ギター。
ミオナ　音楽室は昼休み閉まってるからなあ。
カイ　生徒会室になんかあるかも。
ヒメノ　生徒会室って、いま開いてんの？
カイ　誰か居るんじゃないかな、執行部。
ヒメノ　あ、じゃあ、ウチ行ってくる！
トモコ　一人で出歩かない方がいいよ。
ヒメノ　大丈夫だって。
カイ　だって、執行部に知り合いいないでしょ？
ヒメノ　そーだけど。
カイ　私、執行部だし。ハナシ早いよ。一緒に行こう。
ヒメノ　ありがとう、カイちゃん。へへ。
カイ　へへ。
ヒメノ　だーいすきー！

と、ヒメノ、カイに抱きつく。カイ、反射的に悲鳴をあげ、はじかれたように逃げる。

カイ　きゃあああああああああッ！

間。

ヒメノ　カイ・・・？
カイ　ごめん・・・
ヒメノ　・・・クワッ？
カイ　いや、私・・・
ヒメノ　クワッ？

ヨウヘイ、出てくる。

ヨウヘイ　おれ、行くよ。執行部にトモダチ居るし。

ヨウヘイ、カイに替わってヒメノに手を差し出す。

ヒメノ　うぜーな、馬鹿野郎。顔近ぇーんだよ！

ヒメノ、ヨウヘイを突き飛ばして、掛け去る。

ヨウヘイ　ちょっと、待てよ！

ヨウヘイ、あとを追って退場。サトミ、ミオナ、立ちつくすカイに近づく。

サトミ　気にすんな。
カイ　・・・。
ミオナ　ヌルヌルしてたでしょ？
カイ　・・・。
ミオナ　水かき、あったでしょ？
カイ　・・・。
ミオナ　なんたって河童だもんね。
サトミ　カッパタッチ！（と、鬼ごっこのようにミオナにタッチする）
サトミ　カッパタッチがえし！

と、ミオナとサトミ、タッチの応酬をする。

トモコ　もっとヒメノに優しくしてあげてよ。

間。

ミオナ　でもさぁ・・・河童になっちゃったからって、なんで急に優しくしなきゃイケナイの？
トモコ　かわいそうじゃない。
ミオナ　だって、いままでヒメノのしてきたこと考えたらさあ。
トモコ　え？
ミオナ　ね、ミナミ。
ミナミ　・・・・・。

トモコ　でも、悪気はなかったんじゃないかなあ。
ミオナ　えー、そうかなあ。ねぇ。
サトミ　そうは思えないけどなあ。
トモコ　あんたたちだって、ミナミの教科書に落書きしたり、ズック隠したりしたじゃない。
ミオナ　えー、なにそれ。
トモコ　みんなしてミナミのジャージ鞄から出して、はさみで切ったでしょ！見てたんだから、私！

ミオナ、サトミ、顔を見合わせる。

ミオナ　そりゃ、私たちだって空気読んでさあ。
サトミ　仕方なかったのよ。ゴメンね、ミナミ。
ミオナ　ごめんね。
ミナミ　・・・・。
ミオナ　やめたほうがいいんじゃないの、って言ったんだよ。私。
サトミ　私も。
ミオナ　ヒメノってさ、やり過ぎだったんだよ。みんなそう言ってたよ。
サトミ　ついて行けないって思ってたんだよ、私。
ミオナ　セーカク悪いもんね、ヒメノ。
トモコ　・・・ヒメノのこと、悪く言わないでよ。
ミオナ　え？
トモコ　ヒメノは性格悪くなんかない。
ミオナ　・・・・・。
サトミ　・・・・・。
トモコ　小学校のとき、私、いじめられてて。ずっとみんなからシカトされてたの。いっつもヒメノに助けてもらってた。私は友達だよって。ゼッタイ裏切らないよって。
サトミ　ヒメノって、そんなこと言ってたの？
トモコ　うん。
サトミ　信じられない。
ミオナ　じゃあ、なんでミナミのこと外したの？
トモコ　・・・ワカンナイよ。
ミオナ　え？
トモコ　自分でもワカンナイって言ってた。

ミオナ　どういうこと？
トモコ　なんか、ムカついちゃうんだって。訳もなく憎くなるんだって。
サトミ　ワカンナイよ、そんなの。
トモコ　だから、悪気はなかったんだよ。なにかの間違いだったんだよ。ね、ミナミ。
ミナミ　・・・。
サトミ　気持ちはわかるけどさ、トモコ。あんまりヒメノの肩持ちすぎるのって、どうかなあ。
トモコ　・・・・・。

サトミ、ミオナ、トモコを取り囲むように立つ。トモコ、出て行こうとする。

ミオナ　どこ行くの？
トモコ　私も一緒に探してくる。

トモコ、退場。

サトミ　（タクミに）なんか、めんどくさい展開になっちゃったね。
タクミ　（苦笑いする）

間。サトミ、立ち上がる。

サトミ　もういいでしょ。
カイ　え？
サトミ　図書館でだらだらしてくる。
ミオナ　私も行く。
カイ　タクミ君の歌は？
サトミ　ごめん、あとで。
ミオナ　ごめんね。
タクミ　いいって。
サトミ　残り少ない昼休みをエンジョイしましょう。
ミオナ　そうしましょう。

サトミ、ミオナ、手をつないで退場する。

ミナミ　読んだことないんだっけ？
カイ　え？
ミナミ　「変身」。カフカの。
カイ　あ、小説の？
ミナミ　そう。
カイ　一人の男がいきなり毒虫に変身しちゃうやつ。
ミナミ　そう。
カイ　・・・・・。
ミナミ　最初は体だけなんだけど、だんだん心の中も毒虫に変わっていくの。最初に食べ物の趣味、変わるのね。残飯とか喜んで食べたりして。
カイ　毒虫ってなに？
ミナミ　なんか、足とかわさわさしてるのよ。
カイ　わさわさ？
ミナミ　ムカデみたいにいっぱい生えてるんじゃない？
カイ　元に戻るの？
ミナミ　戻らない。
カイ　なんで？
ミナミ　なんで、って、そういうストーリーなんだから。
カイ　で、その人最後にどうなるの？
ミナミ　殺されるの。
カイ　誰に？
ミナミ　自分の家族に。リンゴ投げつけられて。それ、体にめり込んで。
カイ　なんでそんなことするの？
ミナミ　だって、毒虫だから。
カイ　・・・・・。
ミナミ　久しぶりだね。こうやって二人で話すの。
カイ　そう？
ミナミ　一年の頃は一緒にお昼食べたり、一緒に図書館行ったりしたじゃない。
カイ　そっか。
ミナミ　うん。
カイ　なんで、話さなくなったんだろ。
ミナミ　そりゃあ、アンタがヒメノとつるんじゃったからでしょ。

カイ　そーゆー表現はちょっと、どうかな。
ミナミ　いいのよ。わかってるから。空気読んでただけだよね。カイちゃんも。
カイ　・・・・。
ミナミ　・・・でも、もう、ヒメノはヒメノじゃないから。
カイ　ヒメノはヒメノでしょ。
ミナミ　現実を見なさいよ。
カイ　え？
ミナミ　河童じゃん。河童だよ。ただの河童。（タクミに）ね？
タクミ　・・・。
カイ　ヒメノだよ。
ミナミ　根拠は？
カイ　ちゃんと言葉しゃべるじゃない。ちゃんと気持ち通じるじゃない。
ミナミ　化け物は化け物だよ。
カイ　えっ？
ミナミ　だって顔は緑色だし。皮膚はヌルヌルしてるし、制服脱いだら、背中には亀の甲羅があるの。全身に緑色のウロコ、びっしり生えてるの。自分の臭いって最初はよくわかんないんだけど、少しずつわかってくるのね。一度わかっちゃうと、もう強烈に臭いの。一日に何度もシャワー浴びて、ボディソープいっぱいつけてスポンジでこすって、それでも取れなくて、タワシでこするの。まだ臭う、まだ臭う、って泣きながら。そのうち皮膚が裂けて、血が出て、緑色のかさぶたがいっぱいできるの。
カイ　・・・・。
ミナミ　言葉だって通じるのは最初のうちだけで、そのうち通じなくなるの。誰に話しかけても、返事なんか返ってこないし、ひとりぼっちになるから嫌でもわかるのよ。ああ、私は化け物なんだなぁ、って。
カイ　・・・ヒメノは、化け物じゃないよ。
ミナミ　化け物だよ。
カイ　違うって。
ミナミ　ちゃんとわかってるくせに。
カイ　・・・え？
ミナミ　カイ、さっき、ヒメノのこと避けたじゃない。
カイ　・・・・・。

ミナミ　しょうがないよ。だって気持ち悪いもんね、化け物。
カイ　・・・アンタって、ホント性格悪いのね。・・・だから、みんなにシカトされるのよ。
ミナミ　いいの。
カイ　え？
ミナミ　それ、もう、終わったから。

ミナミ、立ち上がり、退場する。

カイ　・・・なーんか、さ。
タクミ　いや。
カイ　職員室行ってくる。
タクミ　そ。

カイ、退場。ややあって、息を切らしてヒメノ登場。

ヒメノ　あれ、みんなは？
タクミ　どっか行った。
ヒメノ　あ、そ。・・・走って来ちゃった。
タクミ　大丈夫？
ヒメノ　大丈夫大丈夫。

と、言いつつ、ヒメノ、ペットボトルの水を手ですくってアタマの皿にぴちゃぴちゃつける。

ヒメノ　あのね、これしかなかった。

と、ポケットからカスタネットを出す。

ヒメノ　これじゃ、ダメだよね。
タクミ　んー。
ヒメノ　待ってて。ヨウヘイとトモコがまだ探してるから。
タクミ　あ、そ。

間。

ヒメノ　びっくりした？
タクミ　・・・びっくりした。
ヒメノ　メール、ありがと。
タクミ　別に。
ヒメノ　すぐ返信しようと思ったんだけどさ、打ちづらくってさ、
　この手だし。
タクミ　いいよ。
ヒメノ　変身したら、返信できなくなっちゃった。ははは。・・・・・
　それにほら、やっぱ、直接ハナシした方いいと思ってさ。
タクミ　・・・どう、河童って。
ヒメノ　どうって、別に。
タクミ　困ることないの？　メール以外に。
ヒメノ　ま、なんとかかんとか。
タクミ　そ。
ヒメノ　やっぱ、ヘン？
タクミ　・・・似合うよ、おかっぱも。
ヒメノ　てっぺんハゲてるけど。
タクミ　・・・それ、治るの？
ヒメノ　ハゲ？
タクミ　ハゲじゃなくて！
ヒメノ　・・・ワカンナイよ。急になっちゃったから。急に元に戻
　るかも知れないし。
タクミ　あ、そ。
ヒメノ　でもさ、治ったよ地黒。
タクミ　え？
ヒメノ　前にタクミに言われたじゃん、あんまし日に焼けるなって。
　もう地黒じゃないでしょ、全然。中身も見る？・・いやーん、タ
　クミのエッチ。
タクミ　・・・・・・・・。
ヒメノ　良かった。出来たんだね。あの曲。
タクミ　出来たよ。
ヒメノ　早く聴かせてよ。
タクミ　・・・・・・。
ヒメノ　私、まっさきに聴く権利あると思うな。だって、私のため
　に作った曲でしょ？・・あれえ？違うの？違うのかにゃあ？
タクミ　・・・・・・。

ヒメノ　やっぱコレじゃダメ？
　と、ヒメノ、カスタネットを渡すためタクミに近づくが、タ
　クミははじかれたように距離を取る。
ヒメノ　・・・・・・・・？
タクミ　・・・・悪いけどさ。
ヒメノ　え？
タクミ　近づかないでくれる？
ヒメノ　どうして？
タクミ　自分でワカンナイ？
ヒメノ　・・・なんのこと？
タクミ　ミナミの言うとおりだよ。
ヒメノ　・・・
タクミ　オマエ、もう化け物じゃないか。バケモノ！
　タクミ、退場。ヒメノだけ、残される。ヒメノの腰が次第に
　折れてゆき、人間らしい立ち方を失っていく。
ヒメノ　・・・・クワーッ！
　サトミ、ミオナ、登場。
サトミ　ヒメノ、どうしたの？
ミオナ　どうしたの？
ヒメノ　（クワッで）サトミ、ミオナ・・
サトミ　え、なに？
ヒメノ　（クワッで）私、もう駄目だよおおお！
ミオナ　なんだって？
ヒメノ　（クワッで）タクミ君に嫌われちゃったー！
ミオナ　ちょっと、ふざけないで。ヒメノ。
ヒメノ　（クワッで）ふざけてないよー！
サトミ　ちょっと、これなに？
ミオナ　ワカンナイ。
ヒメノ　（クワッで）私の言うこと、ワカンナイの？
ミオナ　言葉、しゃべれないの？

ヒメノ　（クワッで）なに言ってンの？ちゃんとしゃべってるよ！
サトミ　クワってしか聞こえないよね？
ミオナ　うん。
ヒメノ　（クワッで）あれっ？あれっ？

カイ、登場。

ヒメノ　（クワッで）カイ、カイ
カイ　え、なに？
ヒメノ　（クワッで）助けて。私、しゃべれなくなっちゃった！
カイ　え？え？
ミオナ　さっきからこの調子なのよ。
サトミ　わざとやってるんでしょ？
ヒメノ　（クワッで）わざとじゃないよ！

ミナミ、登場。

ミオナ　どうする？
カイ　トモコは？
ヒメノ　（クワッで）まだ、生徒会室から帰ってこない。
サトミ　とりあえず、落ち着いて座ったら？
ヒメノ　（クワッで）落ち着いてなんかいられないって！
サトミ　困ったなー。

ヨウヘイ、登場。

ヨウヘイ　どうしたの？
カイ　ヒメノ、しゃべれなくなっちゃった。
ヒメノ　（クワッで）ちゃんとしゃべってるつもりなの！
ヨウヘイ　えっ？どういうこと？
ヒメノ　（クワッで）顔近づけんな、気持ちわりい！
ヨウヘイ　なんかわかんないけど、ごめん。
カイ　トモコは？
ヨウヘイ　なんか、気分悪くなったって、トイレ行った。
ヒメノ　（クワッで）え？大丈夫なの？
ヨウヘイ　えっ？どういうこと？

ヒメノ　（クワッで）顔近づけんな、気持ちわりい！
ヨウヘイ　なんかわかんないけど、ごめん。

ユキとユキグループ、登場。

ユキ　あら、まだいる。
ヒメノ　（クワッで）え？
サツキ　どうする？
ミナ　しょうがないなあ。
ヒメノ　（クワッで）しょうがないってどういうことよ。
ユキ　ま、とりあえず、気にしないことにしましょ。
グループ一同　さんせーい。

ヒメノ、ユキグループに近づく。

ヒメノ　（クワッで）あんたたち、私を馬鹿にしてんの？
ユミ　あら、なんか、来た？
ユミコ　なんも聞こえないよ。
サツキ　でも、なんか臭わない？
ミナ　気のせいよ、気のせい。
ヒメノ　（クワッで）くやしー。

アヤメ、登場。

アヤメ　（ヒメノの様子を見て）どうしたの？
サトミ　なんかヘンなのよ。
アヤメ　へー。

男子グループ、登場。カードゲームの隊形に座る。ヒメノ、男子グループに「クワッ」で話しかけるが、全く無視される。

タクミ　よし、やるぞ。続き。
アヤメ　私、入ってもいい？
タクミ　カード、ねーだろ？
アヤメ　じゃーん（と、取り出す）
男子全員　よっしゃあ！

アヤメ　よっしゃあ！
男子全員とアヤメ　最初はグー！じゃんけんぽん
じゃんけん。
ヒロキ　じゃ、俺からね。
タクミ　せいぜい頑張れよ。

ゲーム開始。カイのグループとユキのグループはそれぞれ、会話が盛り上がる。ミナミもカイのグループに入っている。三つのグループが同時に進行。ヒメノは、「クワッ」で行ったり来たりして話しかけるが、いずれのグループからも全く無視される。ヨウヘイは少し離れて、なすすべ無くそれを見ているが、やがて退場する。男子のカードゲームが盛り上がる。

男子全員　むおおおおおおおおおおおッ！
ユキ　（立ち上がり）おめーら、ウルセーって言ってンだよ！一回注意したら学習しろ、この小学一年生！
全員　はーい。

四人、黙々とカードをシャッフルする。

ヒメノ　（クワッで）こんなのひどい・・・。
ミナミ　（それを見て、鼻で笑う）
ヒメノ　（クワッで）おい、いま、笑ったな？
ミナミ　・・・・・。
ヒメノ　（クワッで）こっち見て笑っただろ？オメーなんかに笑われる筋合いはねーんだよ！
ミナミ　（更に笑う）
ヒメノ　（クワッで）笑うな！
ミナミ　アンタの気持ちはよくわかるよ。
ヒメノ　（クワッで）・・・・・。
ミナミ　ワケワカンナイでしょ？でもがんばって。
ヒメノ　（クワッで）ひどい。・・・こんなのひどい。
ミナミ　泣くなよ。・・・ムカツクんだよ！
ヒメノ　（クワッで）うわーっ！

と、ヨウヘイ登場。緑色のゴム手袋をつけ、ビニールの雨合羽やいろんなモノで間に合わせた河童コスチュームをつけている。

ヨウヘイ　くわーッ！

びっくりする一同。

ユキ　なに、その格好？
ヨウヘイ　ボクも河童、くわ。
ヒメノ　・・・
ヨウヘイ　ボクも河童くわ。
ヒメノ　・・・
ヨウヘイ　マジくわ。
ミオナ　どう見たって、作りもんでしょ。
カイ　ベンジョ手袋じゃん。
タクミ　おまえ、バカか。
ヨウヘイ　くわくわくわ、僕も河童くわ。・・・ボクも河童くわ。
ヒメノ　・・・
ヨウヘイ　・・・僕も河童くわ。・・・あなた一人に、つらい思いは・・・くわ。くわくわくわ。
ヒメノ　・・・・・・

ヒメノ、言葉を詰まらせる。と、トモコ、登場。

トモコ　ヒメノ。・・・私、さあ・・・

トモコ、ゆっくりと右手を上げ、ヒメノに示す。ヒメノとつないだ手。その手は緑色に変色し、水かきまでも形成されつつある。

音楽「Prise」David Sylvian
全員、無言で冒頭の五×五隊形に移動する。ヒメノ、トモコ、退場。クラスの全員が揃っているが、退場した二人の席が空いている。

サトミ　河童は群れを作らず、単独で生活している。
ミオナ　普段は川の深い縁に沈んで、膝を抱えてじっとしている。
アヤメ　でも、たまに人恋しくなって水面にあがってくる。
ユキ　河童の肌が緑色なのは、誰も見つめてくれないからだ。
マサフミ　河童の背中に甲羅があるのは、みんなが石を投げるからだ。
タクミ　河童の手に水かきがあるのは、誰も手をつないでくれないからだ。
ミオナ　夜、河童が月に向かって吠えることがある。
ミナミ　なぜ私は河童なのか。
ミナ　なぜこの世に河童というものが存在するのか。
アヤメ　その声は誰にも聞こえない。
サトミ　だから誰も答えてはくれない。
マイ　さびしい。
ミナミ　さびしい。
アヤメ　さびしい。
全員　さびしい。
ヨウヘイ　・・・いつの日か、河童が河童でなくなる日が、くるだろうか。
全員　河童が河童でなくなる日が、くるだろうか。

音楽、高まる。
幕。

了

河童

※テキストは優秀校東京公演（２００８年）のものです。
作　畑澤聖悟

【解説】
弘前中央高校に転勤後、青森中央高校演劇部のために書き下ろした新作。顧問ではないので規定によりコンクールでの扱いは「既成作品」となる。いじめというテーマで人間社会の差別の構造を鋭くえぐり出す。フランツ・カフカに捧げる愛と笑いの５５分。劇団昴に書き下ろしの『親の顔が見たい』と同一テーマで、ほとんど並行して執筆された。第５４回全国高等学校演劇大会で最優秀賞を受賞。『修学旅行』に次ぐ２度目の高校演劇日本一に輝いた。

【コンクール上演】
2007.09　第５１回東青地区高校演劇合同発表会／明の星ホール　**最優秀賞**
2007.10　第２８回青森県高校総合文化祭演劇部門／黒石市民文化会館　**最優秀賞**
2007.12　第４０回東北地区高等学校演劇発表会／名取市文化会館大ホール　**最優秀賞**
2008.08　第５４回全国高等学校演劇大会／桐生市市民文化会館　**最優秀賞、文部科学大臣奨励賞**
2008.08　第１９回全国高総文優秀校東京公演／国立劇場

【その他の主な公演】
2007.11　田舎館村収穫感謝祭／田舎館村文化会館
2007.12　青森公演／青森市民ホール
2007.12　盛岡公演／盛岡劇場タウンホール
2008.08　青森演劇鑑賞協会例会／青森市民ホール
2009.02　第３回サンポート演劇フリーダム／高松文化芸術ホール
2015.02　中・高校生のための高校演劇見本市Ⅱ／渡辺源四郎商店しんまち本店